

〔1回目〕 平成17年11月15日 「豊田地域の振興に関する意見書」

提 言	地域特性、現状、課題	解説、具体策	回 答（平成20年度末）
<p>第1 総論 ・ソフト事業とハード事業の両面における、中野地域と豊田地域の一体的な振興を図る。 ・市民全員が行政情報を共有でき、行政参加できるよう、広報・公聴の充実をはかり、市民目線での行政運営に努める。 ・中野地域、豊田地域、それぞれの特色を生かしながら均衡ある発展を図る</p>			
<p>第2 健康・福祉・子育て 支援の体制づくり</p>	(1) ・高齢化問題。 ・交通弱者問題。	・高齢者、交通弱者の外出支援サービス（バス乗車券支援、タクシー通院費助成など）の維持充実を図る。	・運転免許証を有しない70歳以上の方の外出促進のためシルバー乗車券を給付。要介護認定3から5の高齢者及びひとり暮らし高齢者へ通院等のためタクシー券の助成を実施。 ・重度身体障害者通院タクシー助成事業継続実施。 ・お出かけタクシーを高丘地区（現在は延徳、平野、高丘地区）で平成20年1月より運行。
	(2) ・少子化問題。	・地域での子育てを支援するため、子育て支援センター、児童館・児童クラブ、児童の遊び場等の整備を進められたい。	・豊田子育て支援センターにおいて子育て支援事業を継続実施。 ・豊井小、永田小で放課後児童健全育成事業を継続実施。 ・児童の遊び場整備事業を継続実施
	(3) ・若者の結婚問題。	・社会福祉協議会その他協力団体と連携して、多くの若者が結婚に至ることができるような施策を検討。	・結婚相談継続実施
	(4) ・温泉助成券の制度が違う。	・もみじ荘、まだらおの湯、ぼんぼこの湯等の温泉助成券の、豊田地域と中野地域の統一した制度運用を図る。	・平成18年度より統一した制度運用を実施。
<p>第3 地域資源の活用と 産業振興策の推進</p>	(1) ・まだらおの湯、もみじ荘など温泉施設。 ・地場産業	・まだらおの湯、もみじ荘など温泉施設を生かした観光振興と地場産業との連携を図り、広域観光等の中で、地域の経済的発展を図る。	・広域観光事業推進検討委員会に観光資源として情報提供。同連合の「観光ポータルサイト遊楽ながの」で日帰り温泉施設と特産品を周知。 ・物品の購入は地域事業者からの購入を心がけており、農産物は、地産地消により地元食材を利用し提供している。
	(2) ・道の駅ふるさと豊田を中心とした、農産物直売所、農産物加工施設、農村公園等	・農産物の地産地消の推進 ・観光農園・農産加工品の開発等、農業と観光の連携策促進。 道の駅ふるさと豊田、農産物直売所、農産物加工施設、農村公園等を一体化した農業と観光の連携施策を図る。	・農家の経営支援として情報発信等を継続する。 ・農業者高齢化対策として、中野市産業公社が農作業の受託、農作業支援者紹介事業実施。 ・後継者対策として、新規就農者対策補助金を実施。 ・遊休農地に作付けをした団体又は個人に補助金を交付。
	(3) ・唱歌ふるさとに代表されるすばらしい原風景。	・高野辰之記念館の周辺地域のイメージアップを図る。	・パンフレット、雑誌やテレビ等のメディア取材などイメージアップやPRに努めている。 ・地域の老人クラブ、永田小児童、育成会などによる草刈り・花植え等への協力。 ・ふるさと遊歩道の管理を、北永江公民分館に委託して行い、また、「ふるさとガイドの会」が希望者を案内している。 ・蔦や芝生の植栽を行い、環境を整えてきた。
	(4) ・道の駅ふるさと豊田、農産物加工施設付近に県で農村公園整備を計画。	・道の駅ふるさと豊田、農産物加工施設付近に農村公園を作るべく県の計画があるので、地域資源の活用と産業振興に結びつくよう早期完成について配慮されたい。	・豊田赤坂農村公園は、平成19～20年度にかけて整備、平成21年度に県営施工分オープン。 ・平成21年度に市単独事業でドッグラン施設整備を行う。 ・道の駅ふるさと豊田や農産物加工施設利用組合等と連携し地域の活性化を図る。

提 言	地域特性、現状、課題	解説、具体策	回 答
第4 ふるさとの自然環境の保全	(1) ・高野辰之作詞の唱歌のイメージを表す原風景。	・高野辰之作詞の唱歌のイメージに沿った自然環境の保全と整備。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画前期基本計画、国土利用計画により、豊田地域の自然環境、故郷のイメージを保全し活性化を進めた。総合計画に基づく長期財政計画、実施計画により実行。 ・国土利用計画に基づく土地利用調整を推進。 ・環境基本計画により、豊田地域の農村景観や自然、生態系の保全に努めることとしている。
	(2) ・千曲川兩岸の水辺と里山の環境	・千曲川兩岸の水辺と里山の保全事業については、市民参加による普及啓発、ごみ減量化と環境美化の推進、誇れる地域資源という観点から、事業を着実に進められたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小学生参加によるラフティング自然観察会。 ・壁田城址及び新井薬師堂の地元協働作業による遊歩道整備のため原材料支給や重機借上。 ・自然観察会や原材料支給を今後も継続していく。
	(3) ・飯綱町における産廃処理施設建設計画。	・産廃処分場については、地元意見を尊重しながら適切な対応を望む。	<ul style="list-style-type: none"> ・長丘、豊津地区とその地区内にある産廃処理業者との意見交換を行うため、県と市で年1回程度連絡会を開催し、相互の意思疎通を図り、地域住民の生活環境の保全に努めている。 ・飯綱町の産廃処理施設建設計画について情報提供を行い、地元住民の意見を尊重する。
第5 教育・文化のまちづくり	(1) ・親子のふれあいと地域の連帯感が希薄となりがちである。	・地域ぐるみの青少年育成を目指した分館、育成会活動等の推進。	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成団体への補助金交付事業の継続。 ・子ども地域活動促進事業補助金交付事業の継続。 ・市青少年健全育成連絡協議会から地区活動交付金の交付事業の継続。 ・チャレンジ子ども教室の実施
	(2) ・日本を代表する作詞者と作曲家の高野辰之と中山晋平の生誕地。	・童謡・唱歌の里作りとして大いにイメージアップを図る。	・両氏の功績は本市の財産であり、文化芸術振興において機会を捉え、ご紹介することでイメージアップに繋げていきたい。
第6 魅力ある定住環境と社会資本の整備	(1) ・道路網が機能的に整備されていない。	・国道、県道などの主要幹線道路の早期実現を図る。	・国、県道の改良促進については、中野市土木事業要望会、各同盟会等を通じて、事業着手区間の早期完成と未改良区間の改良促進を要望している。
	(2) ・千曲川沿いの無堤防地区。	・千曲川の無堤地区（上今井、替佐、笠倉、裕）の築堤・護岸対策の整備促進、早期の実現を図る。	・千曲川の無堤地区の築堤・暫定堤防から完成堤防へ嵩上等、千曲川改修の整備促進については、国土交通省及び県へ各同盟会等を通じて要望している。
	(3) ・豪雪地帯である。	・冬期間の道路除雪には、特段の配慮をされたい。	・除雪計画に基づき実施。除雪ドーザ他整備。
	(4) ・人口減少問題。	・豊田地域に若者が定住し、又は市外から人が移り住み、人口の維持が図られるような支援策を検討されたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度から「ふるさと回帰促進事業」を実施。平成20年度ふるさと回帰イベントへ参加。ふるさと回帰専門ホームページ等の運営。引き続き「ふるさと回帰促進事業」を実施し、都市住民の中野市への移住促進を図る。 ・若者住宅（永田地区）8戸。市営6個（城下団地）。
	(5) ・ふたつあるJR駅の利用方法。	・JR飯山線上今井駅、替佐駅が新中野市の玄関口として大いに活用されるよう、利用の普及啓発、利便性の維持向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・JR駅業務委託事業（替佐、上今井駅）を実施。 ・国の地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金を活用し、上今井駅駐車場増設。 ・中野市地域公共交通対策協議会を設立し、「中野市地域公共交通総合連携計画」を策定。
	(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田情報センターによる住民への情報提供の充実。 ・地上波デジタル化への円滑な対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地上デジタル化対応のため、地域情報基盤整備計画、実施計画を策定。 ・豊田情報センター及び関連施設の維持管理に努めた。 ・テレビ放送の送信や自主番組の制作及び送信等を行った。 ・地上デジタル化対応のため、H20.11月からデジタル放送を開始した。 ・放送番組審議会の開催。
	(7) ・公共交通機関の利便性が低い。	・中野地域と豊田地域を結ぶ路線バス（永田線）の運行維持と利便性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・中野市地域公共交通対策協議会において利便性の向上が図られるよう検討し、中野市地域公共交通総合連携計画を定めた。 ・バス回数券購入補助事業により両地域を結ぶバス利用の促進を図った。
	(8)	・消防団の詰所の整備と消防設備の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ車格納と地区消防活動の拠点の永田地区コミュニティー消防センター建設。 ・小型動力ポンプの更新や鉄骨警鐘楼の塗装工事をし、消防設備の充実を図った。

〔2回目〕 平成21年12月4日 「豊田地域の振興に関する意見書」

提 言	地域特性、現状、課題	解説、具体策	回 答（平成24年12月末）
第1 総論 <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト事業とハード事業の両面における、中野地域と豊田地域の一体的な振興を図る。 ・市民全員が行政情報を共有でき、行政参加できるよう、広報・公聴の充実をはかり、市民目線での行政運営に努める。 ・中野地域、豊田地域、それぞれの特色を生かしながら均衡ある発展を図る 			
第2 地域資源の活用と産業振興策の推進	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅ふるさと豊田を中心とした、農産物直売所、農産物加工施設、農村公園等 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の地産地消の推進 ・観光農園、農産加工品の開発等、農業と観光の連携策促進。道の駅ふるさと豊田、農産物直売所、農産物加工施設、農村公園等を一体化した農業と観光の連携施策を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・料理コンクールや食農フォーラムを開催。 ・信州の伝統野菜「ぼたんこしょう」の販路拡大や新商品開発の支援を継続。 ・農商工連携として、事業者を対象に勉強会や研修会を開催。 ・産地・観光 PR 用シンボルマークを作成。 ・中野市産食材を使用する市内飲食店等へ PR 用品配布。ホームページ等で情報発信する地産地消推進店支援事業を実施。
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域で遊休荒廃農地が多い。 ・農業者の高齢化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者の高齢化対策、後継者育成、遊休荒廃農地解消に向けた集落営農組織の育成や法人化等の促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地直接支払制度の活用。農地、水保全管理支払交付金事業の活用を図る。 ・青年就農給付金(国)、新規就農者支援事業(市)、北信州農業道場(県)の周知。
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・市補助の電気柵設置は原則3戸以上の農林業者が組織する団体が対象だが、豊田地域はそのようなケースは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の農林業に対する有害鳥獣被害に対し、電気柵、オリの設置等の対策について、被害状況に応じた速やかな対応と助成範囲の拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的条件等により、3戸以上となることが困難な場合は市単独事業で助成。 ・オリの設置等については、平成23年度に、豊田地域と中野地域の駆除協議会が合併し対応。
第3 ふるさとの自然環境の保全	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・千曲川両岸に民間産廃施設があり環境汚染が心配される。 ・飯綱町における産廃処理施設建設計画。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高野辰之作詞の唱歌のイメージに沿った自然環境の保全。 ・千曲川両岸の係る民間事業への適切な運営指導。 ・飯綱町における産廃処理施設の建設計画についても地元意見を尊重しながら適切な対応をされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産廃処理事業者への指導は、県と連携して対応している。県と市が主導して、毎年開催している地元区と関係業者との連絡会を今後も継続していきたい。 ・飯綱町における産廃処理施設については飯綱町との情報交換を継続する。
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・斑尾山麓に平成6～7年度に生活環境保全森林事業により遊歩道が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・斑尾高原体験交流施設と連携し、森林浴、トレッキングコースを整備（信越トレイル以外で） 	<ul style="list-style-type: none"> ・斑尾山麓の遊歩道等は経年劣化等により荒廃したため、平成22～23年度に豊田地域内遊歩道を整備。 ・遊歩道マップや案内看板を作成し近接の「斑尾高原体験交流施設」や「信越トレイル」と連携を持たせ、観光資源として有効活用出来るよう整備。 ・引き続き、危険箇所の点検見廻りに併せ、遊歩道の草刈り、修繕、倒木の除去等を行い、遊歩道としての機能保全を図る。
第4 魅力ある定住環境と社会資本の整備	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・道路網が機能的に整備されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道、県道などの主要幹線道路の早期実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県道の改良促進については、中野市土木事業要望会、各同盟会等を通じて、事業着手区間の早期完成と未改良区間の改良促進を要望している。
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・千曲川沿いの無堤防地区。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千曲川の無堤地区（笠倉、上今井）の築堤、砦地区の護岸対策の整備促進、早期の実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千曲川の無堤地区の築堤・暫定堤防から完成堤防へ嵩上等、千曲川改修の整備促進については、国土交通省及び県へ各同盟会等を通じて要望している。
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少問題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田地域に若者が定住し、又は市外から人が移り住み、人口の維持が図られるような支援策を検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎暮らし「楽園信州」推進協議会に加入し、移住、交流促進に努めている。 ・ホームページによる情報発信、県外での相談会開催、各種相談会等での広報物設置、パンフレット作成を行っている。
	(4) <ul style="list-style-type: none"> ・JR 替佐駅に公共駐車場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便局北側の市有地を活用し駐車場を整備するなど、利用者の利便性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・替佐駅周辺は民間会社と替佐区の駐車場が整備済み。市内各駅とのバランスを考慮し、財政負担が生じる新たな駐車場の整備等は考えていない。 ・JR 上今井駅をパークアンドレールと位置づけ駐車場整備を行っている。
	(5) <ul style="list-style-type: none"> ・H21.8.26 豪雨で替佐地区数戸で床上浸水が発生。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雨時における土浮地籍の排水路等、総合的な排水対策。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度に雨水排水現況調査を実施、平成22年度に雨水排水処理計画を作成し対策を検討。平成21・22年度には緊急措置として一部の水路改修を実施。 ・替佐駅周辺の排水路改修を平成23・24年度に行った。
第5 教育・福祉の地域づくり	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・若者の結婚問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等と連携し多くの若者が結婚に至る施策を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会や各種団体などと連携し結婚相談や各種交流イベントを実施。
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・少子化による児童、生徒数の減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の再編については、地域住民の意見を尊重し、均衡ある発展に配慮されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民教育懇話会を開催し地域の皆様から多くのご意見、ご要望等をお聞きした。 ・再編については、中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会を設置し審議中。

[3回目] 平成25年3月19日 「豊田地域の振興に関する意見書」

提 言	地域特性、地域課題等	解説、具体策	回 答
総 論 <ul style="list-style-type: none"> ・豊田地域は少子高齢化や人口減少が進み限界集落の増加が懸念されている。 ・協働事業等を展開し、住民一人一人が手間を惜しまず汗をかき積極的に参加することで住民相互の絆をより深めることができ、地域活性化が図られる。 ・地域が生んだ偉大な国文学者高野辰之の唱歌“故郷”の表す豊かな自然を大切にする。 ・恵まれた豊かな自然を生かした地場産業の振興。 ・災害に強い安全・安心な住みやすい地域づくり。 			
第1 地場産品の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼたんこうしょう、大根、りんご、桃、ぶどうなどの農産物やアップルパイ、おやき、味噌などの農産加工品の地場産業。 ・十分に販路が確立されているとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物、農産加工品の販路拡大支援 ・より一層の地場産品の振興を図るため、“故郷のふるさと”を活用した地域ブランド開発の指導、助言。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大策として長野市でお披露目商談会（H22～25、93社、532名）を開催、また市内生産者を対象とした各種講習会を開催。 ・商品開発支援として農商工事業者が参加する研修会を開催。 ・シンボルマーク及び“故郷のふるさと”の活用促進、フェイスブックによる情報発信ほか、様々な方法で情報発信に努めている。
第2 1区1事業に対する助言・指導	<ul style="list-style-type: none"> ・区長が中心となり、組織づくりの促進、地域の絆を強めるため、桜並木の手入れ、城址整備、蛍の保護活動など行っている。 ・各区の事業が地域全体を結ぶ線になっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・点在する事業を結び付け、効果的に地域全体に波及するよう、助言、指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気づくり支援金、地域力支援金活用の相談、区で活用できる補助制度などの一覧配付。 ・区からの相談に応じて、関係課等へ案内、国や地域活性化センターへ地域づくり講師や助言者派遣の検討。
第3 自然エネルギーの活用による安全対策の確立と自然エネルギー策の普及	<ul style="list-style-type: none"> ・千曲川や中小河川、遊休荒廃地など、自然エネルギーが活用できる環境にあると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外灯、公共施設への電力供給や災害時の非常用電源確保などのため、自然エネルギーを活用し、将来的には広く普及できるような施策を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電の公共施設（情報センター等）への設置は建物構造等の問題があり計画にいたっていない。豊田支所 ・遊休荒廃地の活用には農地法上の条件がある。 ・小水力発電の設置には水利権等の許認可が必要となる場合がある。
第4 自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田地域の水源の多くは斑尾山麓にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の目的不明な買収等は、思わぬ影響が及ぼされる懸念があるので、監視強化等、厳しい態度で臨むべきである。 ・近隣市町村と連携して、斑尾山麓一帯の自然環境を守る施策を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・斑尾地域での一定規模以上の開発には許可が必要となっている。 ・県では水資源の保全に関して、条例、規則、基本指針を策定し、水源の土地の取引の監視等に努めている。 ・水源は近隣自治体管理になっていることや予算等の問題から、現状では調査が困難。 ・分野が多岐にわたることから今後研究をしておく必要がある。
第5 防災管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の高齢化により、消防団員、水防団員の成り手が不足。災害時の対応が困難になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自警団等の体制強化、消火器具の増設、高齢者や女性でもあつかえる消防機器の導入や、避難場所の耐震強化など、地域防災体制の一層の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消火栓等の適正な整備、初期消火対応の充実、維持管理の徹底を図る。 ・集会所等の整備は、中野市公会堂建設事業補助金などの制度が活用できる。
第6 区の統廃合に対する指導・助言	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少により、運営が困難な区がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合検討委員会を設置した地域もあり、必要に応じて市からの指導、助言をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区の組織再編強化などの調査検討費として、中野市自治会共助協働支援金が利用できる。 ・区の統廃合について指導、助言をすることは考えていないが、要望があれば統廃合検討委員会への資料提供は可能。
第7 小・中学校の再編	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化による児童、生徒数の減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の再編は、単なる統廃合の検討ではなく、保育園も含め、子どもたちの健やかな成長を鑑み、地域住民と十分な話し合いをもってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、審議会を設置し学校規模の適正化を検討中。審議会から答申がされしだい方向性を示したい。